

令和7年度 第5回西原町地域公共交通協議会
議事要旨

【日時】 令和8年3月9日（月） 14：00～15：30

【会場】 西原町役場2階 災害対策室

1. 報告について

(1) 第4回西原町地域公共交通協議会（書面会議）の協議結果及び第三者評価委員会からの評価結果について（資料1）

⇒第4回西原町地域公共交通協議会（書面会議）の協議結果及び第三者評価委員会からの評価結果について、報告した。なお、ご意見・ご質問は以下の通りである。

ご意見・ご質問	事務局等の回答
意見なし	-

2. 議題について

(1) 西原町地域公共交通協議会財務規程の一部改正について（資料2）

(2) 令和7年度西原地域公共交通協議会補正予算（案）について（資料3）

⇒西原町地域公共交通協議会財務規程の一部改正、令和7年度西原地域公共交通協議会補正予算（案）について、出席委員全員より承認をいただいた。なお、ご意見・ご質問は以下の通りである。

ご意見・ご質問	事務局等の回答
意見なし	-

(3) 公共交通の課題・方針（案）について（資料4）

⇒公共交通の課題・方針（案）について、出席委員全員より承認をいただいた。なお、ご意見・ご質問は以下の通りである。

ご意見・ご質問	事務局等の回答
<p>[西原町PTA連合会 上間委員]</p> <p>AIオンデマンド交通の導入によって、イニシャルコストやランニングコストなど一定の費用が発生する。行政として継続していけるのか確認したい。</p> <p>また、移動支援策としては、タクシーチケット等が考えられる中で、AIオンデマンド交通の導入を検討した経緯を教えてください。</p>	<p>今年度、交通空白地域に該当する自治会を中心にヒアリング調査を実施した。その中で必要な時間にタクシーが捕まらないといったご意見を多数いただいた。仮にタクシーチケットを配布した場合、移動したい時にタクシーが捕まらない可能性がある。そのため、乗合タクシーを導入し、専属の運転手を確保したいと考えている。</p> <p>また、実証運行については、国土交通省の補助金を活用しながら実施する予定であり、他市町村の事例を参考にランニングコストを抑える方法についても検討していきたい。</p>
<p>[沖縄県バス協会 慶田委員]</p> <p>沖縄県内では南風原町と名護市でAIオンデマンド交通を導入している。行政間で情報交換を行い、懸念事項などを確認していただきたい。</p>	<p>町が想定しているメインターゲットは高齢者層とご理解いただきたい。</p> <p>一方で、実証では利用制限は行わず様々なデータを収集し、今後の本格運行に向けた検討に活かして</p>

ご意見・ご質問	事務局等の回答
<p>また、実証運行の概要では、利用対象者は制限なしと記載がある。高齢者をターゲットとするのか、目的を明確にしていきたい。</p>	<p>いきたい。</p>
<p>[沖縄総合事務局 亀谷委員]</p> <p>地域公共交通計画の具体的な内容については、次年度以降詳細に検討していただきたい。</p> <p>名護市の場合は、民間事業者主体で乗合タクシーを運行しており、収支率の関係で見直しを検討されている。AIオンデマンド交通に関しては、収支が取れないことを前提に検討を進めていただきたい。また、町として継続していくためには、AIオンデマンド交通導入の目的や、導入前の対応できてない移動、導入後の対応できるようになった移動を明確にしておく必要があると考える。</p> <p>なお、実証運行については、確保したいデータの種類や、対象エリアの検討が必要である。協議会や庁内検討委員会など様々な立場の方からご意見をいただいたうえで、ご検討いただきたい。</p>	<p>地域公共交通計画策定の目的として、行政サービスとして住民の移動を支えることと、持続可能な移動手段の確保に主眼をおいている。そのため、ご意見を参考にさせていただきながら、AIオンデマンド交通を継続的に実施していきたいと考えている。</p>
<p>[琉球大学 神谷副会長]</p> <p>分野別の役割分担のイメージについては、現在、福祉有償運送を実施しているのか確認したい。</p> <p>来年度初旬からMICE関連が動き出していくと思われるため、並行してご検討いただきたい。</p> <p>AIオンデマンド交通の導入に関しては、タクシー運転手も不足しているため、前提条件を再検討した方が良いと思う。また、乗合タクシーは導入までのプロセスが重要だと考えている。地域と一緒に作り上げる空気感や、民間企業の前にバス停を設置することで運賃収入以外の収入源の確保することなども検討していただきたい。嘉手納町では、高齢者のみ世帯に対して、ワンメーター程度のタクシー運賃の支援を行っている。そういったことも考え方の一つとしてあると思う。</p> <p>町内の中学生がどこの高校に進学しているのか、教育委員会などが把握していると思うため、分析・整理していただく方が良い。いかに住民に公共交通を利用してもらうのかという視点も重要である。例えば、知念高校に通学する場合は与那原交差点から1km程であり、その移動手段の確保に注力することには疑問が出る。そのため、公共交通利用に関する利用者側の目標施策があっても良いと思う。そ</p>	<p>会議資料は、今後の役割分担のイメージであり、福祉有償運送は現在実施していない。</p> <p>AIオンデマンド交通については、町としては町内交通事業者と一緒に作り上げていきたいと考えている。その中で、どういったものが利用者にとって使いやすいものになるのか随時ブラッシュアップしていきたい。また、自治会などのご協力もいただきながら、地域と作り上げていくプロセスも念頭に進めさせていただく。</p> <p>住民への働きかけについても、他市町村の事例も参考に、モビリティマネジメント等の取組に力を入れていきたいと思う。</p> <p>フォーカスをあてる対象者については、その視点を明確にしながら、計画策定を行っていきたい。</p> <p>沖縄県主体の循環バスについては、西原町として町内を含めて循環していただくルートを提案していく予定である。今後予定している周辺自治体連携会議で近隣市町村の協力を仰ぎながら、てだこ浦西駅を基点とした移動手段を確保していきたいと考えている。</p>

ご意見・ご質問	事務局等の回答
<p>の他、健康寿命や環境保護、免許返納後の移動手段の確保などの視点が不足していると思う。</p> <p>本当に困っている人の移動ニーズが重要である。真にサポートが必要な移動を明確にし、フォーカスをあてた対象者への移動に注力してほしい。</p> <p>沖縄県が主体の循環バスのルート募集を行っている。西原町としての考えを教えてください。</p>	
<p>[沖東交通 東江委員]</p> <p>実証運行についてはKPIも含めたうえで検討を進めていただきたい。また、実証運行から本格運行への移行について、令和8年度の実施期間が短いと非常に難しいと思う。一般的には周知・広報の期間が2か月かかる。なお、道路運送法21条から4条に切り替えるためには、事業者が4条乗合の免許を取得する必要がある。町の認識と事業者の認識を揃えた方が良い。</p>	<p>ご指摘いただいた内容については、交通事業者と密に協議しながら進めていきたいと考えている。現時点の想定では、令和8年度の10月頃に実証運行を開始したいと考えているが、協議会や交通事業者協議の内容によっては開始時期を調整させていただきたい。</p>
<p>[西原町副町長 小橋川会長]</p> <p>実証運行開始前に協議会の開催予定があれば教えてください。</p>	<p>協議会の実施時期は未定であるが、実証運行の開始までに2~3回は開催したいと考えている。また、交通事業者とは個別の意見交換も適宜行っていく。</p>
<p>[西原町観光まちづくり協会観光協会 近藤委員]</p> <p>本当に移動することができない方々への移動支援が重要だと考える。先ほどの、名護市で乗合タクシーを継続できていないという話があったが、本事業も町の補助なしでは自走できないと考えている。福祉分野の対応を重点的に検討できないか。</p>	<p>当然、町の必要経費として支援していく部分もあるが、国・県とも連携しながら、継続性を重視して展開していきたい。</p> <p>町全体の予算の中で、福祉のための支出（扶助費）の比率が一番大きい。そんな中、他市町村の事例を見ると乗合タクシーの利用者層は、主に高齢者の利用であり、高齢者の外出機会の創出につながる部分もある。そのため、移動支援に関する町の施策によるクロスセクター効果についても考慮していきたい。</p>
<p>[西原町PTA連合会 上間委員]</p> <p>町では、過去に乗合バスの実証運行を実施したが、本格導入には至らなかったこともあるため、今回の実証運行では、ある程度の期間、見通しを持って実施してほしい。</p>	<p>ご指摘を受け止め、持続可能な運行となるよう適宜検討していきたい。</p>
<p>[沖縄総合事務局 亀谷委員]</p> <p>地域公共交通計画に位置付けることで、AIオンデマンド交通の導入時だけでなく、ランニングについても国の補助が活用可能である。今回の協議会のような、様々な関係者で実証運行を検討していくプロセスは評価できるため継続</p>	<p>—</p>

ご意見・ご質問	事務局等の回答
<p>していただきたい。</p>	
<p>[公募町民 大城委員]</p> <p>当然の部分になるかもしれないが、コストを掛ければ解決できる課題もあるため、どれだけの予算をかけるのか、財政的な持続可能性の視点も加えてほしい。</p> <p>「基本方針①：住民の日常生活を支える公共交通」は視点が広いと思う。西原町としては文教の町、那覇市のベッドタウンとしての見方もある。通勤・通学時の路線バスの大幅な減便が進んでいる問題は大きく、福祉だけではなく、通勤・通学にも着目してほしい。</p> <p>また、民間企業との連携が弱いと思う。マイカー通勤を辞め公共交通を利用する企業へのメリットや、協賛金によるバス停誘致など、お互いにメリットのあるような巻き込み方を検討した方が良いと思う。</p> <p>アイデアとして、免許返納後すぐに公共交通を使うのはハードルが高いため、免許返納する前の段階から公共交通に慣れてもらうような取組ができれば良いと思う。</p>	<p>財政的には、一定の目安を検討していきながら実施する。企業との連携やモビリティマネジメントについても、他都市の事例を参考にしながら、取組を進めていきたいと思う。</p>

(4) その他

ご意見・ご質問	事務局等の回答
意見なし	-

以上